

— 広 告 —

KIT  
キャンパス  
レポート



齋藤 拓也 (さいとう たくや)  
金沢工業大学大学院工学研究科  
高信頼ものづくり専攻  
博士前期課程二年  
山形県立酒田北陸高等学校出身

## 日本のトップレベルの研究施設 そこで学びたいと思ったんです。

あることが入学の一番の理由で、当初から院進学を考えましたね。課題が週に十個以上という時期もあったけれど、多くの友人と意見交換しながら取り組むことで記憶に定着しやすいとわかり、楽しみながら勉強できました。専門科目が増えて一挙に忙しくなる三年からは、アプリで徹底的にスケジュール管理する習慣ができました。」

金沢工大のICC革新複合材料研究開発センターは、複合材料分野の研究開発・教育・連携活動を支える日本最大級のイノベーションプラットフォーム拠点である。齋藤さんはICCに強く魅かれた。複合材料を研究する大学院生は、ICCの特別授業で講義と実習を受けることができるからだ。

「他の大学にはない研究施設が

齋藤さんの研究テーマは「ガラスクロス/樹脂の浸透性と毛管数の相関性におよぼす表面改質の影響評価」。成形不良の少ない複合材料を作るのが目的である。指導する齋藤博嗣教授の専門は複合材料工学、材料力学、計算力学。教育熱心で学生思い。論文の投稿では学生をファーストオーサー(筆頭筆者)にしてくれるのだという。

「昨年(2019年)は四回、今年の五月に一回、学会発表しました。他大学の先生や研究者からアドバイスをもらえるので、積極的に参加するようになっていきます。そして英語は苦手ですが、いずれは国際学会にも参加するだろうと、昨年には先輩と先生とで英語論文の勉強会を。三人で読み合わせをし、発音や単語の意味などを指導してもらい、非常に勉強になりましたね。」

齋藤さんは昨年の日本複合材料シンポジウムで優秀学生賞を、日本材料学会のJCOM若手ウェブ

ナードで優秀発表賞を受賞した。今年の秋にはアメリカの国際学会ASSCと日本の学会発表のほか、英語論文の投稿も予定している。

「一番面白かったのは、学生ブリッジコンテストに参加し、優勝したことです。学生自身がCFRPの橋梁模型を作り、どれだけ荷重に耐えられるかを競います。他大学のユニークな考え方が興味深かったですね。ほくは基礎研究なので、実際のものづくりを体験したくて。コンテストでも自分の研究でも、ICCのアドバイスをもらいながらやれるのがうれしい。」

果敢にチャレンジし、食欲に吸収する姿勢。それが学生時代に獲得した成果だと語ってくれた齋藤さん。一筋縄ではいかないものづくり、人の心を動かすエンジニアになりたいと、目を輝かせた。

**金沢工業大学**  
石川県野々市市扇が丘七-1  
電話番号(076)248-2100